

伊勢市地域審議会会議議事録  
(平成19年度第2回二見地区地域審議会)

1. 日 時 平成19年11月6日(火)  
19時~21時 公開による
2. 場 所 二見総合支所3階第1会議室
3. 協議内容 市長の諮問に関する審議  
(1)伊勢市の観光振興について  
(2)二見総合支所庁舎の有効利用について
4. 出席委員 松本 徳男委員、濱千代 利弘委員、松本 誠委員、  
奥野 雅則委員、中村 恒委員、橋本 清美委員、北井 伸治委員、  
北村 峯記委員、酒徳 孝委員、北岡 孝敏委員、宮後 朝訓委員、  
柏端 長一委員、須崎 京子委員、八木 直己委員、濱條 幸久委  
員
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 二見総合支所長、二見地域振興課長、係
7. 傍 聴 人 0名
8. 内 容 (概要)

(1)伊勢市の観光振興について

・地域振興課長：新市の一体感の醸成のために二見として何が出来るか。二見としては、観光振興での役割を果たしていくということで、本日と来年になるか次回で二見の役割について協議いただきます。本日の前半は、伊勢市の観光振興について、後半で二見総合支所と本庁舎の利用について協議いただきたい。状況次第で、もう一度学習会(まとめ)を開く。資料の伊勢市の観光振興(基本方針と施策)を基に協議をお願いします。

・委員：観光資源の活用について、二見には賓日館を中心とした観光エリアがあります。現在、行われている工事について説明をお願いしたい。

・地域振興課長：平成14年度から街なみ環境整備事業で二見浦公園を含む旅館街一帯の整備を行ってきました。二見浦公園の用地は、旧大蔵省から公園として借用しているものであり、現在の駐車部分は、本来の目的外使用にあたる指摘を受けている。また、昨年、名勝二見浦に指定され、文化庁から、現在の駐車台数40台を公園利用者のための22台へ変更することで了承を得ています。

・委員：案内看板を設置するなど必要な措置をした上、完全に車の駐

車を止めるかどうか。

・委員：完全に無くすのは駄目です。緊急車両とか、障がい者の事もありますし。

・地域振興課長：車を駐車場に置いて旅館街をそぞろ歩きしていただく導線を確立したい。

・委員：昨年の伊勢神宮参拝者数は、600万人あったと聞きましたが、伊勢市にはトイレ観光であったと思います。もし、一人1400円のさい銭で採算がとれる。宿泊は、地元泊まっていたくようにしなきゃ駄目です。神宮会館が満員になったのであれば、そのクラスのホテル施設を整備すれば良いのではないかと。民間資本を導入したPFIで行えば良いのでは。市が観光客を増やすプロジェクトを策定し、また、集客中心から宿泊を増やす政策への方向転換する良い時期ではないかと思えます。伊勢にセントレアからの観光客を広域連携観光で呼び込みを図る。単独では弱い。伊勢こじきと言われるが、何も手を打たず見ているだけでは、客は来ない。二見が、観光で貢献できる場所ではないか。

・副会長：はたして、神宮会館クラスの施設を造れば観光客が呼べるのか不信を持ちます。経費の回収に不安がある。

・委員：民間は、採算が取れる見込があれば参入するはずである。良いプロジェクトを作成すればである。

・地域振興課長：今の二見の旅館に、なぜ泊まらないのか。神宮会館に多いのか。意見を聞かせていただきたい。

・会長：泊まる客層が違うように思う。また、音無山駐車場のトイレの苦情があったように、気持ちよく施設を使ってもらえるようにする事が大事である。

・委員：資料で平成4年から6年の海水浴客数の変動が極端に思うが要因が何か分かれば教えてほしい。

観光地の高山との違いは、ハード面以外では他力に頼らず、自力でお客をもてなそうとする気持ちが違うと思えます。

また、2度3度二見へ来ていただくのが無理なのか、エージェントがお客を宿泊動員する意志がないのではないかと。

・地域振興課長：他との違い、原因の思いつく点があればどうぞ。

・委員：スチュワーデスのようにもてなしの心が違うのでは。バスが着いてその場で食事が出るところが無いのでは、ハード面でも整備が必要だ。もてなしの心が重要ではあるが、魅力がなければ客は来ない。

- ・委員：神宮会館は、神宮の崇拜心によるのも大でないか。
- ・委員：観光は、もてなしの心、料理、施設の3本柱が大事である。地元観光業者が中心となりビジョンを建て、協調心を持って、行政はその手伝いをするようにもっていくのがベスト。もてなしの心を醸成することが重要である。体験型のテーマごとのモデルコースをつくるのもひとつ。セントレアからのステーションを造るだけでなく、これを基にした広域協力策が必要である。
- ・地域振興課長：街並みを利用した事業等でも少しずつ地元でも自分たちの力でやって行こうとする気持ちが出てきている。
- ・委員：日間賀島は、ここ数年の間に料理で成功している。
- ・委員：もし2、3時間あれば、二見の何処を案内しますか。  
郡上八幡は、見るところがまとまっているわけではないが、食品サンプルを作るような体験施設がありました。
- ・委員：向上心を持って努力していけば観光客数は伸びていくと思います。
- ・委員：今、何か手を打たないと駄目になる。地元である旅館、観光業者等がどう二見をしていく考えなのか、地元としての考えはどのようなか知りたい。
- ・委員：私の考えをまとめたものを作成しました。地元の考えとの違いは大差ないと思われそうです。私自身は、色々な会へ参加しているが、他の人がどんどん参加していく状況にならないといけない。地元の足並みが揃っていない。気持ちが無い現状である。伊勢こじきの話が出ましたが、何もしないで待っていては駄目になる。旅館では、昔と変わって一人何役もやっている所以他に力を入れられない現状はある。まちづくりに取り組めば、自分の所も潤うという考えと人によって見解の違いがある。
- ・委員：土産物屋の現状は、子どもが無く高齢者だけでやっているため自分のところで精一杯な面はあります。どのように周りでフォローできるかだと思います。
- ・副会長：今の現状では、総合駐車場に車を置いて旅館街を歩いてもらうのは難しい。何か料理とか企業努力が必要である。
- ・委員：二見には零細企業が多い。観光へ税金を投入しても茶屋区が潤えば町全体が潤うと思ってきたが旅館街の顔が見えてこないの、地元の気持ちが伝わってこない。
- ・委員：観光客調査を見ると昭和30年代と比べて一般客数は、あまり変動していないが、学生が10分の1になっているのが原因ではな

いか。体験型を取り入れたりして学生を呼び戻す手法が必要に思う。

・地域振興課長：次回までに体験学習も含めて具体的な案をいただきたい。

・委員：現在、旅館組合でも体験学習で何が出来るかが最重要課題として検討している。街なかでいろいろな体験をしていただく。他の地域でも利益率が良い修学旅行を動員できるように努力してきている。

・委員：茶屋区でお菓子作りの体験が出来ないのか。

・地域振興課長：次の審議会では、今日提出していただいた委員の意見書も見ていただき各人の考えをお願いしたい。

## (2)二見総合支所庁舎の有効利用について

・地域振興課長：本庁も含めた庁舎等の使用方針、有効利用について検討されてきました。

今までに、二見総合支所には、市史編さん室、伊勢志摩観光コンベンション機構が入り、今年は、税務課、収入役分室、上下水道課、教育委員会分室が統合されました。平成20年度には、産業建設課は、窓口機能を残し本庁へ統合。上下水道部が二見へ移転してきます。市史編さん室は、旧早修幼稚園へ。コンベンション機構は、二見生涯学習センターへ移転になります。また、産業部が商工を残して本庁から御園へ移転します。

来年4月で庁舎利用については、最終決定となりますが、総合支所の体制の前倒しは早々過ぎないか。サービスの低下にならないように自治会連合会等から要望は出ています。

・会長：移行のスピードが速すぎるため産業建設課の統合について総連合自治会からも市長に要望をしたところです。

・総合支所長：住民サービスの低下が無いことが前提である。窓口は、地域振興課で行い、実業務は、本庁が担当します。道路、水路の改修等は、統合されても影響は無いであろう。メリットは、予算が集約されるので大きな事業が出来る。今の予算規模の現状維持はされます。移行時のしばらくは、戸惑いが多少あるかもしれない。

・地域振興課長：上下水道部の移転に伴う庁舎2階、3階の工事が、年明けから始まり、3月に終了します。85人の職員が来ます。総合支所は、20人くらいになる。今年度の庁舎移転費用全体で、3~4千万円の予算です。

・委員：二見の庁舎のロビーは、他になく悪いように思われる。狭いし待合椅子も少なく古いので交換してほしい。

- ・委員：教育委員会の事務について、地域振興課で担当しているものを教えていただきたい。
- ・地域振興課長：体育協会と子ども会事務を地域振興課で受け持っています。そして、今度、産業建設課の窓口を持つこととなります。
- ・委員：合併後の行事について、人の集まりが少なく寂しい思いがします。行事やイベントの周知についての放送等、もっと柔軟に対応できないものか。非常に不便を感じます。
- ・地域振興課長：言われるように近頃の行事への集まりは非常に少なくなっているように思います。行事、イベントの周知については、市主催について防災行政無線が使えます。
- ・会長：今回は、12月半ばに第3回を行い、意見をまとめたい。必要なら勉強会を持つことも考えます。

閉会